

海軍水路部

昭和九年十月十九日  
第一海洋閣議

0240.

第一海洋戦闘及沈没ニ関スル情况

一九二七 測量科

第一海洋ハ昭和十九年十月九日以降、ホルネオ東岸、デラワンの附近ニ在リテ

第一測量班ノ測量作業ニ協力中ナリシ処、十月十九日朝敵機ノ空襲ヲ受ケ

勇戦ノ後至近彈ノ為遂ニ沈没戦死二名、重軽傷二十四名ヲ出セリ、破泊

位置、デラワンの北水道東経二八度一三一分、北緯二度一八六分、當時ノ

状況次ノ如シ

一十九日〇八二〇頃

「コンソリデーター」B24一機ヲ発見（高度約六〇〇米、方位南東）直ニ總員ヲ

戦闘配置ニ就ケ、對空戦闘ヲ開始スルト共ニ至急板錨續イテ回避運

動ニ移ル

〇八三五

第一回爆撃（高度約六〇〇米ニ彈）船橋右舷正横約一五〇米ニ落下

人員船体ニ異状ナシ

海軍

八三五

第二回投弾（二弾）前橋右舷正横約七〇米ニ落下異状ナシ

八〇二

中央

第三回船倉左舷約三米ニ二弾落下瞬間船体ハ前後ニ湾曲シ左舷

船底附近ニ亀裂ヲ生ジタルモノ如ク左舷ニ傾斜シツツ次第ニ傾キ浸水シ

舵ハ損傷シ又後橋ハ下方ヨリ約三分ノ一ノ所ヨリ損傷ス 當時取舵一杯前進

微速揚ノ所ニ在リ極力舵故障復旧ニ努メノ淺瀬ニ坐洲セントシタルモ能ハス

敵機ハ高度ヲ下ゲ機銃掃射シ我亦應戦ス

九三五

測量艇一隻及原住民コブラウレ救助ノ爲来着重要物件及戦死者ヲ

搬出ス此時指揮官ハ意識不明次席森上曹戦死三席加太上曹

意識不明ナリシヲ以テ第四席ノ植田一曹總員退去ヲ下令ス

當時甲板上浸水ニ尺ニ及ブ

0242

〇九四八

救助各艇舷側ヲ離ル

〇九五〇

船体ハ浸水シツツ水道ヲ東方ニ流レテリシガ全ク沈没スルニ至ル (東至二八分五分 北緯二五八六分)

戦果ナシ

二乗員戦死及負傷等ノ状況

各員終始配置ニ在リ第三回目ノ攻撃ニ伴フ爆風、弾片、破片及機銃弾

ニ依リ森林上層ハ見放配置ニ於テ戦死シ中一平甲板員ハ操舵中舵輪ヲ握

リタル儘壯烈ナル最後ヲ遂ゲ其ノ他各員モ各自ノ戦闘配置ヲ死守スル

内夫々負傷スルニ至ヒリ (重傷四名 軽傷二〇名)

一〇ニ〇頃 全員第一測量班基地ニ上陸シ應急手當ヲナス

一七三〇処置ヲ要スル傷者一七名 測量艇「コアラウ」(曳航)ニテ「トラカシ」

ニテ向ケテ「アラウ」ニ発

(文書抜粋)

0243

海軍

二十日ニ〇〇〇ヲタラカンレ着直ニニ警病室ニ入室及治療ヲ受ク  
 二十一日〇八〇〇ヨリコデラワンレ島一測基地ニ於テ戦死者二名ヲ荼毘ニ付ス  
 二十三日夕食後重傷者及治療ヲ要スル輕傷者計八名ヲ残シ他ノ二名  
 (現地人一ヲ含ム)共栄丸(油槽船約五〇噸)ニ便乗  
 二十四日〇六〇同船ヲタラカンレ發初ノコデラワンレニ残リタル一〇名(内現地人四名)  
 乙女丸ニ便乗  
 二十七日夜乙女丸共栄丸ヲバリッククバパンレに着  
 二十八日夕食後一七名(現地人四名測量班員ト共ニコバリッククバパンレニ残留)  
 亞南丸ニ便乗  
 二十六日〇六〇コバリッククバパンレ出港一番浮標附近ニテ敵機一ノ攻撃ヲ受ケ同  
 行中ノ一隻航行不能トナリタルヲ以テコバリッククバパンレニ返ス  
 三十日二〇〇出港  
 三十一日夜半頃コバシエルマシレ着待機

0244



別表

第一海軍系組戦死傷者名簿

備考 ○印はカシニ警病室残留

戦死傷別	戦死	戦傷死	重傷	軽傷
官職	上曹	標船手	兵曹長	上曹
配置	見取警成員	甲板員	指揮官	見取警成員
傷	頭部貫通銃創	左胸部打撲傷	前頭部下顎部挫創 腹部打撲傷兼頭部挫創	右眼球摘出 左側胸部擦過傷兼同足部挫傷 右肘左下腿挫傷
氏名	森 秀次郎	中 平 富士夫	久保田 清重 加太 新太 津島 岩雄	植田 藤次郎 萩原 喜夫 藤原 裕夫

0246

4

同備 用)	同	機 関 手	同	同	操 船 手	同	輕 傷  (雇 用)員	同	技 工 士	同	操 船 手	技 工 士
同	同	機 関 員	同	同	甲 板 員	航 海 士	機 関 士	航 海 士	機 関 士	甲 板 員	甲 板 長	通 信 士
左 足 部 挫 傷	右 下 腿 挫 傷 腰 部 打 撲 傷	右 肘 部 挫 傷	左 足 部 挫 傷	後 頭 部 挫 創	左 足 部 压 抵 傷	右 足 趾 切 創	前 頭 部 挫 傷 創	胸 部 打 撲 傷	左 肘 部 同 膝 関 節 部 擦 過 傷	左 側 胸 部 挫 創 傷	左 膝 関 節 部 挫 創 兼 左 前 臍 部 打 撲 創	胸 部 打 撲 傷
中 川 實	二 野 寺 栄 次 郎	石 井 萬 次 郎	志 賀 孫 次 郎	村 上 政 治 郎	鈴 木 佐 喜 夫	渡 邊 駒 吉	雲 野 政 十	石 橋 英 太 郎	阪 元 正 輝	中 鉢 五 郎	澤 田 俊 児	白 井 貞 彦

海軍

(支那支隊)

0247



無傷

衛兵長

主兵長

標船手

標閑手

福田 幸一

西本 茂治

山下 吉雄

小野 寺榮

0248

第一海洋

一内地港灣出港年月 昭及 スラバヤ到着年月日

横須賀軍港 昭和十八年七月五日 昭和十八年九月十七日

二内地出發以來、乗組員名簿(官職)ハ乗船當時モヲ示ス

配置官(職)	氏名	乗船年月日	下船年月日	摘要
指揮官 兵曹長	吉村 貢	内地出發前乗船	一九二七、二八	一九三九戰死同日兵曹長
警戒員 一曹	森 秀次郎			
	加太 新太		一九二一、三〇	
	植田 藤次郎		一九二一、三〇	
	水長 吉田 明		一九二二、二三	
	尾谷 潔		一九二〇、三一	
主計員 主兵長	祖父江 芳之丞		一九二一、三、七	一九二一、三、三 第一海洋に於て戦死
看護員 二十兵	杉本 正雄		一九二〇、一一	

海軍



6

海軍	機員	樹園手	石井万次郎	一九、一一三〇	一九、一一三〇	
			小野寺栄藏	一九、一一三〇	一九、一一三〇	
			阪元正輝	一九、一一三〇	一九、一一三〇	
			福 俊雄	一九、一一三〇	一九、一一三〇	
			橋本福吉	一九、一一三〇	一九、一一三〇	
			岸野三郎	一九、一一三〇	一九、一一三〇	
			中川 寛貞	一九、一一三〇	一九、一一三〇	
			福田幸一	一九、一一三〇	一九、一一三〇	
			藤原裕夫	一九、一一三〇	一九、一一三〇	
			梅野俊雄	一九、一一三〇	一九、一一三〇	
			吉野久夫	一九、一一三〇	一九、一一三〇	
			長谷川受雄	一九、一一三〇	一九、一一三〇	
			服部忠夫	一九、一一三〇	一九、一一三〇	

海 軍

0251

大正十一年三月二十五日

主計員	主兵長	西本茂治	一九三七	一九二一三〇	一九四九航路部着(香久丸)
航海士	技工士	石橋英太郎	一九四二	(一九二一七)	一九四九航路部着(香久丸)
通信士	"	白井貞彦	一九四二	(一九二二三)	一九四九航路部着(香久丸)
甲板員	操船手	志賀孫次郎	一九四二	一九二一三〇	一九四九航路部着(香久丸)
機関員	機関手	二瓶栄太郎	一九四二	一九二一三〇	一九四九航路部着(香久丸)
		重山健良	一九六六	一九二一三〇	一九四九航路部着(香久丸)
甲板員	操船手	山下吉雄	一九六六	一九二一三〇	一九四九航路部着(香久丸)
指揮官	兵曹長	久保田清重	一九七二	一九二一三〇	一九四九航路部着(香久丸)
甲板員	操船手	中鉢五郎	一九七二	一九二一三〇	一九四九航路部着(香久丸)
通信士	一曹	荻原喜雄	一九九一	一九二一三〇	一九四九航路部着(香久丸)

0252

⑦

第一海洋沈没当時ノ経緯

二十一日

○機密ヲニシテ番電接受

○科務令報

十一月七日

○バリックバンヨリ帰還者到肩

道中

下士官兵四 技工士ニ坐船員三 操舵手核回手七計十六名 (指揮植田兵曹)

他ニ現地人一名船内ニ於テ死亡

右ニ依リ判明事項

一 海洋沈没時ノ状況

二 人員 戦死者 森上曹 中平操舵手

二 警病室 指揮官 下士官兵ニ 技工士ニ 傭人ニ 計八名

一 測 現地耳名

海軍

11

機密第三〇三七番電

第一測量班長

宛 南方海軍航路部長

通報 2KF 長官

二十九日〇八ニ〇敵機ノ空襲ヲ受ケ第一海洋ハ至近彈ノ為沈没戦死二名重傷艇長以下  
五名軽傷一〇名アリ傷者ハ直ニ第二警備隊ニ輸送セリ

一 測量班ニ異状ナシ

一 今後益々敵襲ノ虞アリ予定ノ作業ノ進捗ヲ得ズ至急引揚給ル申配慮ヲ乞フ

機密第三二一九四番電

発 P/2209

通報

口 2KF

南方海軍航路部長

2KB 電令作ニ四〇牌

二十一日日ゴデラフン西方水道測量中、第一海洋敵機ノ為沈没三六三七駆潜特ハ  
現場ニ至リ器材其、他ヲ収容、バリックパンニ帰投セヨ

(文書集納)

海軍

0254







9

八	五	二四	一三	二二	一〇	一六	三	一〇一	一八	一四	一三	一三
	五九六一 二八二		五七九 二七七		五〇二 四〇九		四九二 四〇九		四八六 四八四		四〇八 三九五	
ハロ作業地に向ケテスラヤ登	一五三 スラヤに着	六〇 炭水糧食補給ノ爲メスラヤニ向ケテ作業地登	六〇 作業地着観測作業開始	六〇 アラス海峽向ケテスラヤ登	三三 スラヤに着	九〇 スエヤシ向ケテジャカルタ港登	七〇 ジャカルタ港着	八〇 ジャカルタニ向ケテスエヤシ登(測量艇三隻出航)	三三 スラヤに着	三三 コタバル登	二二 コタバル假泊	一六 バリックパンシに着登
			一級海象観測	測機密第一八號ニ依ル小シラス 列島アラス海峽ノ海潮流垂		九〇 北水道ニ浮標附近 海流観測船登見分		第三測量班ヲスラヤヨリ ジャカルタニ輸送				

海軍

(文書集納)

0257

二六五 二六六 二六七 二六八 二六九 二七〇

二七五  
二七六

二七五  
二七六

二七五  
二七六

二七五  
二七六

二七四  
二七五

二六五作業地着

観測作業終了五五五、スラバヤ作業地(口志)之發

二五〇スラバヤ着

第三海軍工作部三俣乾船渠系入渠

出渠

凡日作業地(口志)海峡向(口志)スラバヤ

凡日(口志)海峡観測作業開始

清水糧食補給(口志)五五五スラバヤ向(口志)上發

二五〇スラバヤ着

自差修(口志)スラバヤ(口志)海外(口志)五五五

凡日作業地(口志)スラバヤ

凡日(口志)海峡観測作業再興

凡日(口志)海峡向(口志)スラバヤ

指 申

別紙(口志)三俣(口志)飯(口志)スラバヤ  
海峡(口志)海峡(口志)海峡(口志)海峡  
観測

二五〇スラバヤ(口志)海峡(口志)海峡(口志)海峡  
凡日(口志)海峡(口志)海峡(口志)海峡  
凡日(口志)海峡(口志)海峡(口志)海峡

10

5

八二五五	一五〇〇スラバヤ	一五〇〇スラバヤ
八二五九	〇八〇〇スラバヤ	一五〇〇スラバヤ
八二六〇	〇九〇〇スラバヤ	一五〇〇スラバヤ
八二六一	〇九〇〇スラバヤ	一五〇〇スラバヤ
八二六二	〇九〇〇スラバヤ	一五〇〇スラバヤ
八二六三	〇九〇〇スラバヤ	一五〇〇スラバヤ
八二六四	〇九〇〇スラバヤ	一五〇〇スラバヤ
八二六五	〇九〇〇スラバヤ	一五〇〇スラバヤ
八二六六	〇九〇〇スラバヤ	一五〇〇スラバヤ
八二六七	〇九〇〇スラバヤ	一五〇〇スラバヤ
八二六八	〇九〇〇スラバヤ	一五〇〇スラバヤ
八二六九	〇九〇〇スラバヤ	一五〇〇スラバヤ
八二七〇	〇九〇〇スラバヤ	一五〇〇スラバヤ
八二七一	〇九〇〇スラバヤ	一五〇〇スラバヤ
八二七二	〇九〇〇スラバヤ	一五〇〇スラバヤ
八二七三	〇九〇〇スラバヤ	一五〇〇スラバヤ
八二七四	〇九〇〇スラバヤ	一五〇〇スラバヤ
八二七五	〇九〇〇スラバヤ	一五〇〇スラバヤ
八二七六	〇九〇〇スラバヤ	一五〇〇スラバヤ
八二七七	〇九〇〇スラバヤ	一五〇〇スラバヤ
八二七八	〇九〇〇スラバヤ	一五〇〇スラバヤ
八二七九	〇九〇〇スラバヤ	一五〇〇スラバヤ
八二八〇	〇九〇〇スラバヤ	一五〇〇スラバヤ
八二八一	〇九〇〇スラバヤ	一五〇〇スラバヤ
八二八二	〇九〇〇スラバヤ	一五〇〇スラバヤ
八二八三	〇九〇〇スラバヤ	一五〇〇スラバヤ
八二八四	〇九〇〇スラバヤ	一五〇〇スラバヤ
八二八五	〇九〇〇スラバヤ	一五〇〇スラバヤ
八二八六	〇九〇〇スラバヤ	一五〇〇スラバヤ
八二八七	〇九〇〇スラバヤ	一五〇〇スラバヤ
八二八八	〇九〇〇スラバヤ	一五〇〇スラバヤ
八二八九	〇九〇〇スラバヤ	一五〇〇スラバヤ
八二九〇	〇九〇〇スラバヤ	一五〇〇スラバヤ
八二九一	〇九〇〇スラバヤ	一五〇〇スラバヤ
八二九二	〇九〇〇スラバヤ	一五〇〇スラバヤ
八二九三	〇九〇〇スラバヤ	一五〇〇スラバヤ
八二九四	〇九〇〇スラバヤ	一五〇〇スラバヤ
八二九五	〇九〇〇スラバヤ	一五〇〇スラバヤ
八二九六	〇九〇〇スラバヤ	一五〇〇スラバヤ
八二九七	〇九〇〇スラバヤ	一五〇〇スラバヤ
八二九八	〇九〇〇スラバヤ	一五〇〇スラバヤ
八二九九	〇九〇〇スラバヤ	一五〇〇スラバヤ
八三〇〇	〇九〇〇スラバヤ	一五〇〇スラバヤ

海軍

(文書番号)

0259

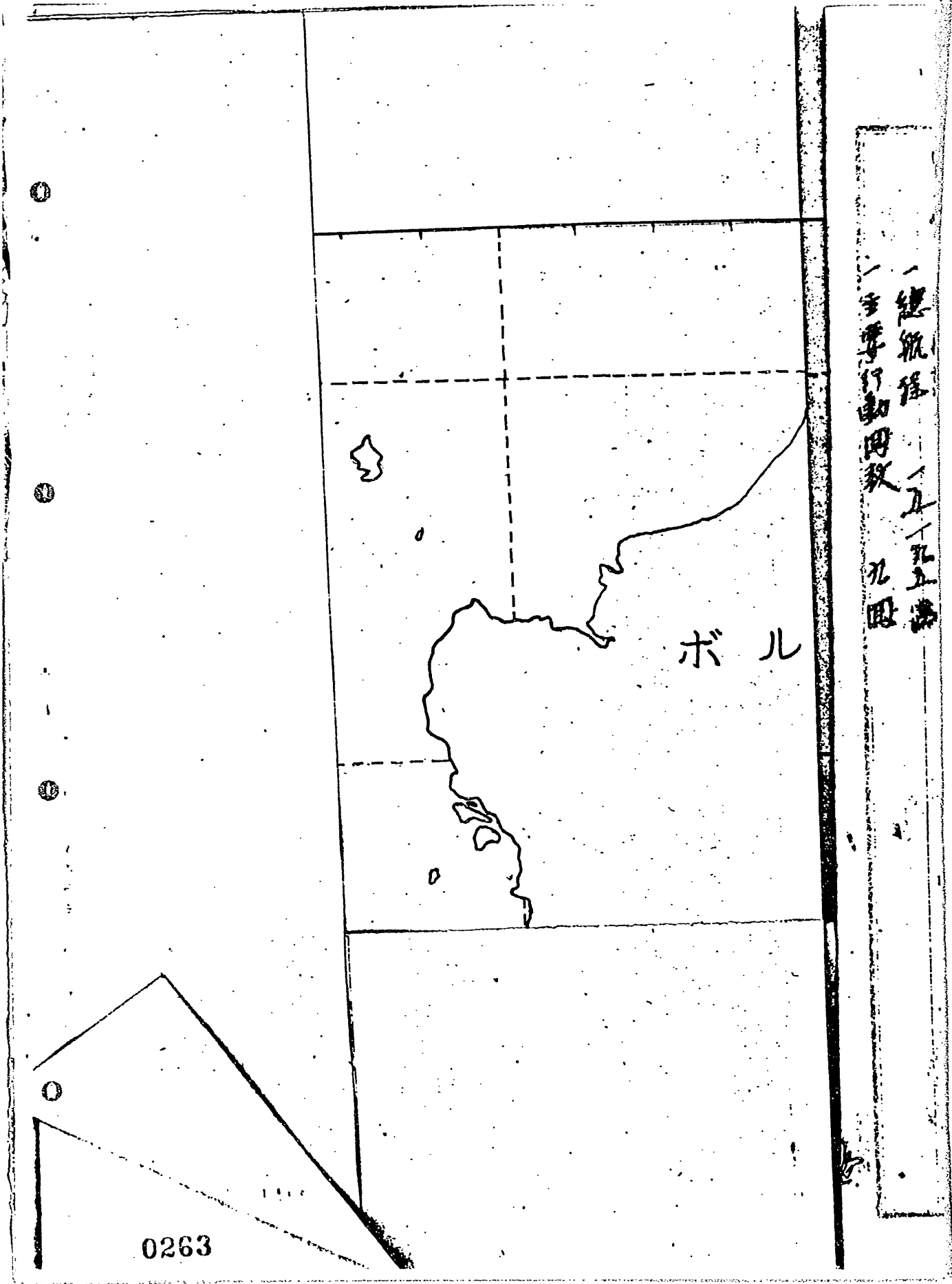
一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一
一三四	一三三	一三二	一三一	一三〇	一二九	一二八	一二七	一二六	一二五	一二四	一二三	一二二	一二一
觀測作業終了後一四〇〇〇〇向一泊草池発	一五〇〇〇〇向一泊草池発	一六〇〇〇〇向一泊草池発	一七〇〇〇〇向一泊草池発	一八〇〇〇〇向一泊草池発	一九〇〇〇〇向一泊草池発	二〇〇〇〇〇向一泊草池発	二一〇〇〇〇〇向一泊草池発	二二〇〇〇〇〇向一泊草池発	二三〇〇〇〇〇向一泊草池発	二四〇〇〇〇〇向一泊草池発	二五〇〇〇〇〇向一泊草池発	二六〇〇〇〇〇向一泊草池発	二七〇〇〇〇〇向一泊草池発
無能	無能	無能	無能	無能	無能	無能	無能	無能	無能	無能	無能	無能	無能

0260

一六	一四二〇	二二〇〇ハエロシヤ看 観測作事開始	観測
一五		〇九〇〇ハリ海峡向リスラバヤ發	〇九〇〇ハリ海峡向リスラバヤ發
二七	一三九五	一四〇〇スラヤ看	〇九〇〇ハリ海峡向リスラバヤ發
二四	一三九〇	〇七五〇スラヤ看	〇九〇〇ハリ海峡向リスラバヤ發
二三		八四上 観測作事終了	〇九〇〇ハリ海峡向リスラバヤ發
二八	一三九〇	一四〇〇スラヤ看	〇九〇〇ハリ海峡向リスラバヤ發
二七		一三九〇スラヤ看	〇九〇〇ハリ海峡向リスラバヤ發
二五	一三九〇	一四〇〇スラヤ看	〇九〇〇ハリ海峡向リスラバヤ發
二四		一四〇〇スラヤ看	〇九〇〇ハリ海峡向リスラバヤ發

海軍





一總航海一五九一五五海  
一三季行動四教九四

ボル

0263



昭和九年十月十五日戦死

第二海軍閣僚級

海軍水路部

海洋觀測船第二海洋戰艦並ニ沈没ニ関スル情况

一九一〇年七月

第二海洋ハコスマトシ北東岸「リンガ」泊地兵要海象觀測ノ為昭和十九年十月十五日〇九四五  
「スバヤ」ヲ出港「スバヤ」海峡ヲ北ニ出テ西掃海水路ヲ經テ作業地ニ向ヒタル処同日ニ〇〇〇頃東部  
「ジャワ」北岸「レバン」縣沖約八四哩（南緯六分三十分 東經一一分三十分）附近ニ於テ突然敵水艦ト至近ノ間ニ遭遇  
シ勇戰ノ後遂ニ沈没指揮官海軍兵曹長廣瀨弘以下三六名（生存者三名）戦死スルニ至レリ  
本情况ハ右生存者ノ記憶ニ基ツキテ記述セルモノナリ

一 戦斗状況

十月十五日 月齡ニ七六 日没一九二五 月ナシ 視界五 風向東 風速約四ノボ

海上横掃三 波浪三

二〇〇〇（推定以下同ジ）

後方至近距離ニ（五〇米以内）突然潜水艦ヲシキ黑影ヲ認め

次ノ瞬間機銃射撃ノ闪光ヲ認めテ彈着ヲ見ル

全員戦闘配置ニ就ク 砲戰 爆雷戰 下令

海軍

0265

全速トナシ取舵ニ轉舵陸岸ニ向針セリ

機銃射撃開始

敵砲撃開始 初弾短艇甲板後部ニ命中 火災ヲ生ズ 續イテ第二弾 第三弾

船橋及其下方ノ実験室ニ命中シ 附近大破シ各裝備計器格納物件飛散シ

附近一帯ニ火災起ル

第四弾ヲ中部甲板右舷前部ニ爾後船橋附近ニ數彈 左舷側ニ二彈ヲ受ク

右舷後部 (部員室附近)ニモ被彈アリタルモノ如シ

二〇二

爆雷攻撃 (二発)

機銃及爆雷共ニ敵ニ若干ノ損害ヲ与ヘタルモノト認ムルモ詳細不明ナリ

此頃全露天甲板火災トナル 總員退去下令 約一〇名海中ニ身ヲ投ス

二〇三

敵ハ益々近接シ来リ銃砲撃手ス 残存者 倉口右舷側ニ集結ス

(文庫資料)

0266

機関長ハ最後迄船ニ留マリタリ

三四〇

火災愈猛烈トナル

指揮官ハ聲ヲ厲シテ残留者ニ退船ヲ命ズ

此時重傷ノ御代操船手ハ小型丸木舟(押収搭載中)ニ移サレ二三名ノ附

添ト共ニ本船ヲ離ル

指揮官ハ水野上曹中述ニ曹等前記中部甲板右舷前部ニ茲ビ從容トシ

テ船ト運命ヲ共ニスル有様海上ヨリ望見セシタリ

船ハ猛火ニ包マレタル儘左旋回ヲ續ケ附近晝ノ如ク明ルシ

敵ハ尚モ執拗ナル攻撃手ヲ加ヘテ附近海面ヲ掃射シ游泳避退中ノ乗員ヲ射

殺ス

三四〇 (不確定)

爆雷ノ誘発ラシキニ二回ハ大音響アリ之ト共ニ一時火勢ノ根ニ加ハリタルモ間モナク海洋

海軍

ハ沈没シ附近暗黒ニ歸セリ

十六日朝

戰場ニ他人影ヲ見ズ(生存者)

河田一曹ハ道板ニ擱マリ漂流中ニ二ノ頃現住民出漁船ニ救助セラレ一五〇〇ハ

テ州、レンバン、郎、コケラ、村ニ上陸ス

垣内上衛及鈴木機関手ハ夜半前記小型「ボート」ニ辿リ着キ(既ニ当時人影

カシ)朝陸岸ニ向ヒ二四〇同州同郎「スロケ」村ニ安着ス

二 搜索状況

(一)河田一曹ハ通報ニ依リ「バテ」憲兵隊ハ附近一帯ノ断村ニ対シ注意方指令ス

(二)同憲兵隊ノ要請ニ依リ「レンバン」縣「セム」海事局ヨリ十七日救難船ヲ出シ

海洋沈没現場附近ヲ搜索シタルモ人員及浮流物ヲ認メズ

(三)2/18(二十一日ヨリ)日迄第一〇四駆潜特務艇及水上機ヲシテ右海面ヲ搜索セシ

タルモ何等得ル処ナシ

3

三人員狀況

(一) 乗員

計三九名 詳細別表第一通

(二) 戦死者

計三六名内二名現地人 詳細別表第二通

(三) 當時ニ於ケル各員ノ情况

1. 會社時ノ当直員

(イ) 船橋 山崎航海士 操舵員不明

(ロ) 檣械室 當磨檣関手 鈴木誠檣関手 鈴木浦男檣関手

(ハ) 見張警戒 石井二曹 水正一水 小村技工士

(ニ) 電信室 宇田技工士

ロ 各員ノ動靜

指揮官

最後迄指揮ヲ執リ部下ノ大部ヲ退避セシメ燃工盛ル船上ニ立

海軍

(文庫資料)

機関長

チテ船ト運命ヲ共ニセリ

終始持場ヲ守リ船ト運命ヲ共ニセリ

總員退船下令後指揮官ハ屢々機関長ト機関長ト連呼

シ機械室ヨリ脱出ヲ促シタルモハイレスト答フルノミナリ

竹内運轉士

当初頭部ニ負傷シ指揮官ト共ニ在リタルモ突厥室機械室間

通路ニ在リタルヲ目撃シタル者アルモ以後不明

上野機関士

總員退船ノ令ニテ退船スルヲ見タル者アルモ以後不明

當磨

尚鈴木浦男機関手ハ游泳中一度當磨機関士ニ會ヘリ

御代操船手

当初重傷(後頭部彈片創)前記ホトニテ避難セシメタルモ以後不

明

水野上曹

終始指揮官ト行動ヲ共ニシ

中辻上曹

鈴木一曹

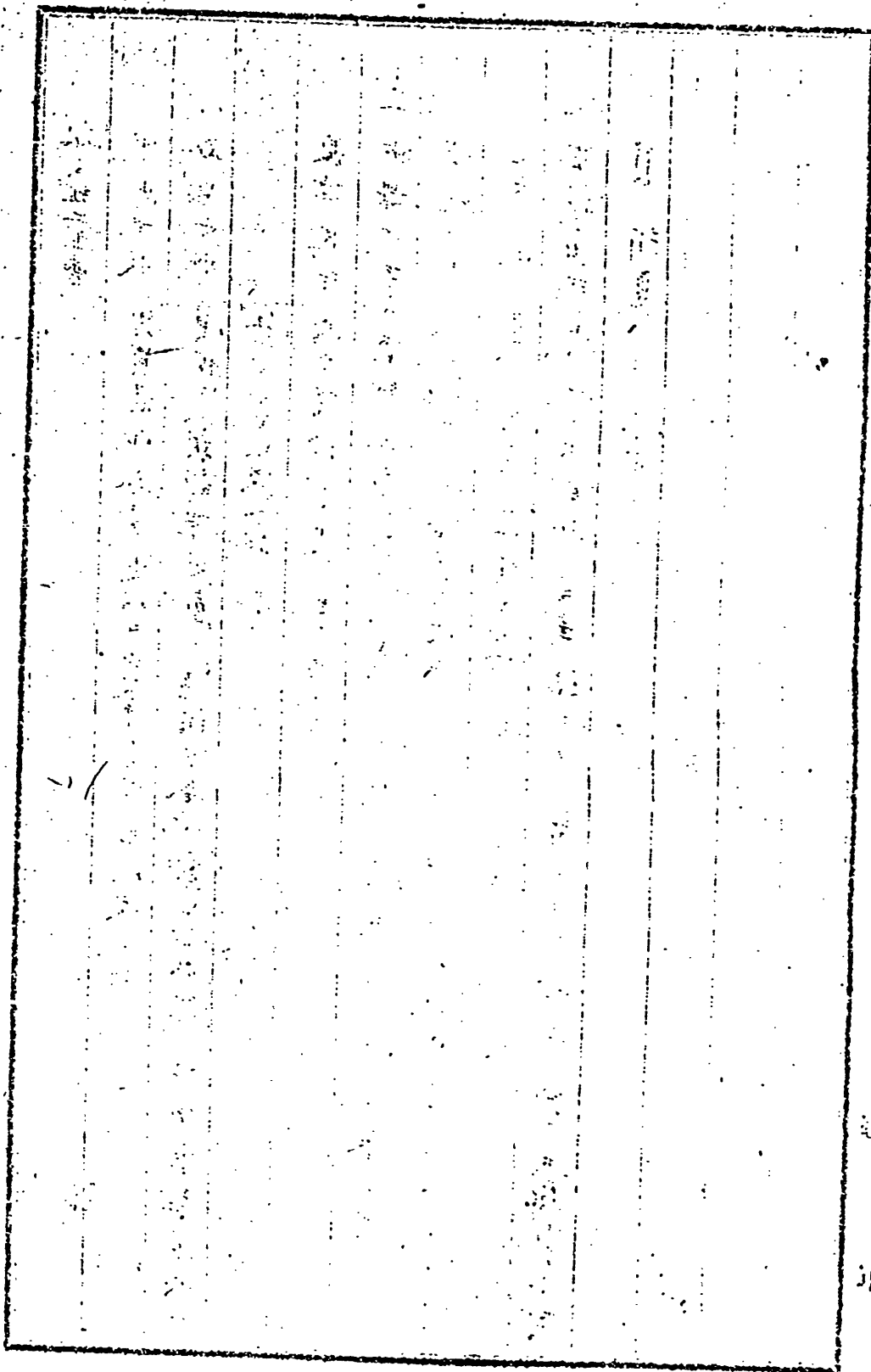
献祭見時ハ後甲板ニ在リタルモ以後ノ行動ハ不明

祖父江三主曹	中山一水	谷口一水	長津技手	尚一	崎航海士	ルモノ	ニ生存者	員ノ消息
	總員退船ノ令ニテ退船ヲ目撃セシタルモ以後不明	負傷シ(頭部彈片創)退船下令時倉口右舷側ニ指揮官等ト共ニ在リタルモ以後不明	終始指揮官ト行動ヲ共ニス	崎航海士ハ室驗室ニテ石井ニ曹小村技工士ハ羅針船橋見張配置ニテ山	水正一水ハ船橋ニテ北内宇田通信士ハ無線室ニテ夫々戦死シタルモノノ如ク生存者中ニ一度モ姿ヲ見タル者ナシ	ニ生存者三名ハ何レモ前部ニ集結シタル者ナリシ爲他ノ部ニ在リタル者	ハ全ク不明ナリ	(終)

(文庫資料)



5



(本館蔵)

第  
二

0272

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

3

南航機密第五海

昭和十九年十月二十日

南方海軍航路部長

海軍省人事局長殿

戦死證明書作製件委託

左記戦死者ニ対スル首題ノ件可然即取計相成否

記

戦死年月日	戦死場所	戦死概要	有死体収容	官(職)	氏名
一九四二 二・三	フィリピン 北岸 パンロ 沖	海軍部配属雑役航路第二海軍東組 海軍視察船作業地内航行中 上記地兵ニ於テ敵潜水艦ト交戦戦死	無	海軍技手	長津久二
	(南緯五十三分 東経二一十五分)			同	桃澤清
				技工士	竹内良三郎
				同	上野卓郎
				同	吉田武二郎

海軍

(文庫資料)

0273

												無
機 関 手	同	同	同	同	同	同	操 船 手	同	同	同	同	技 工 士
格 ヶ 谷 金 石	永 沼 貢	田 中 義 勝	吉 野 久 夫	御 代 勤	武 田 操	小 松 政 雄 夫	伊 藤 胤 男	小 杉 静 夫	小 村 光 三 郎	佐 條 実	宇 田 豊	北 内 休 夫

0274



南航機密第五海、三五

昭和十九年十月二十一日

南方海軍航路部長

海軍省人事局長殿

戦死者、件通知

左記ノ者十月十五日ヨリ三ノジャワ北岸、コレンバン沖  
(南緯三方三十分、東経三十三分五分)ニ於テ

戦死致シ

記

海軍板手長津久二、桃澤清

板工士 竹内良三郎、上野卓郎、吉田武二郎、北内休夫、宇田典彦

佐藤 実、小村光三郎、小杉静夫

操船手 伊藤胤男、小松正雄、武田 操、御代勲、吉野久夫

田中義勝、永沼 貢

海軍

機密ノ事ナリ  
板手橋ノ各員太  
石井一男カ  
機密ニ成  
此備申

7)

	員	組	業	有	固					配	
甲板員	甲板長	同	通信士	同	機関士	同	航海士	航海長	機関長	指揮官	配置
同	操船手	同	技工士	産(徴用)員	技工士	産(徴用)員	技工士	一曹	技工士	兵曹長	官職
小松政夫	伊藤胤男	宇田豊	北内休夫	當磨嘉男	上野卓郎	山崎豊喜	竹内良三郎	鈴木芳夫	吉田武二郎	廣瀬弘	氏名
				同							配
同	同	同	同	機関員	操機長	同	同	同	同	甲板員	配置
備(徴用)	同	同	同	同	機関手	同	同	同	同	操船手	官職
落合四郎	鈴木浦男	北浦嚴	鈴木誠	橋谷金太	石井一男	永沼貢	田中義勝	吉野久夫	御代勲	武田棟	氏名

名簿

第二海洋

海軍

0277

8

同	同	班員	班長	觀	同	同	同	同	同	見 警 戒 員
技 工 士	曹	同	技 手	同	甲 板 員	看 護 員	主 計 員	同	同	同
佐 藤 實	河 田 登 志 夫	桃 澤 清	長 津 久 二	マ ル サ ツ ト	特 殊 使 役 者	上 衛 の	二 主 曹	水 正 裕 行	片 山 萬 三	石 井 幸 三 郎
						垣 内 繁 夫	祖 父 江 芳 之 丞			中 辻 清
										上 曹 水 野 直 一

合 計	者 乘 便	同
	同 班 員 量	同 班 員
	同 一 水	同 技 工 士
	谷 口 昌 一	小 村 光 三 郎
三 十 九 名	中 山 森 夫	小 杉 静 夫

0278

9

村  
村

十

官職氏名	種別	死亡年月日	死亡状況	遺族住所	遺族氏名	続柄
海軍 長津久二	戦死	昭一九二〇・一五	シヤ北岸一レパン沖於テ	持田木部郡	長津萩江	妻
技師 桃澤清	同	同	同	長野縣上作郡飯島村大字本郷六二四	桃澤きみ子	妻
技師 竹内良三郎	同	同	同	若手縣下閉伊郡織笠村第二地割子森	竹内良太郎	父
士 上野卓郎	同	同	同	岩手縣上閉伊郡大越山大字大越三二六	上野堅吾	父
同 吉田武二郎	同	同	同	宮城縣本吉郡唐桑村大字唐桑字津本ノ三	吉田ツル	妻
同 北内休夫	同	同	同	兵庫縣多紀郡城北村澤田三三三	大期賢一	養兄
同 宇田豊	同	同	同	任公縣子連郡七字村大字吉越字下幸一	宇田清	父
同 佐藤實	同	同	同	津和野縣大島郡西島根大字大島七三四	佐藤鐵藏	父
同 小林光三郎	同	同	同	靜岡縣濱名郡根志村大字置一七三二	小林柳藏	父
同 小杉静夫	同	同	同	宮城縣本吉郡唐桑村中井二八	小杉種三郎	父
操艦手 伊藤胤男	同	同	同	宮城縣本吉郡唐桑村大字唐桑字立立六	伊藤政藏	父
同 小松政雄	同	同	同	宮城縣本吉郡唐桑村大字唐桑字立立六	小松才治	父

第二 海洋 關

0279





(9)

第二海洋沈没当時ノ経緯

十月十六日〇根椽地隊ヨリ左ノ旨電話アリキ (一五三〇頃)

ハチノ州憲兵隊ヨリ左ノ通知アリキ

一十五日ニ〇ノレンバンノ縣ニ 即ククラガン村ニ五湮沖 猷潜ト遭遇一時間交戦セシモ

猷潜ノ砲撃ニ依リ撃沈セラレタリ

一十六日一四〇。一曹川田登志夫(ニノオ)漁船ニ救助セラレ上陸他ノ乗員ハ戦死ノ算大ナリ

指揮官モ戦死ト認ム

〇七〇 根椽地隊ヨリ電話

一曹川田登志夫収容ノ為ハハチノ州憲兵隊ヨリクラガンニ自動車ヲ派遣セリ

〇夜 根椽地隊ヨリ電話

一曹川田登志夫胸部ニ火傷アリ

〇八三五 大東中佐沖宗書記ハハチノ州向ケ自動車ニテ発

十七日

海軍

0281

○ IKB 電令作第三八四號

○ ○ ○ ○ 大東中佐 21AB<sub>g</sub> 別官 バタイ 着 垣内上衛 鈴木楳閑手 ヲクラン 附近ニテ救助セ

十八日

○ 一六〇八 河田一曹 垣内上衛 鈴木楳閑手 蒲田 駅着 入室ス

○ 一五二〇 科長 (沖宗書記) 帰着

十九日

○ 遺品取扱者ヲ 富田技手 藤田技工士 長谷川兵曹長 近藤一水ト定ムラル

二十日

○ 科務令報

十一月十四日

○ 一九三〇一ニ二三〇 吉別本通夜

十五日

○ 九九〇ヨリ 吉別式

0282

10

機密第一六八。七香電

通報南方海軍航路部長

100 炸電令作第三八四號

一 第二海洋八十五日ニヨリ 南六五三〇分 東二五五分 ニテ 敵潜ノ砲撃ヲ受ケ沈没セリ

二 水上機隊ハ速ニ此ノ敵ヲ捕捉撃滅セヨ

三 104 駆持ハ速ニ出撃手ヲアワルヤワルル角ヨリ「マングリカ」島附近ノ掃蕩及人命救助ニ任ズベシ

(登) 南方海軍航路部長

(花) 水路部長

第二海洋十五日ニヨリ三〇分 ジャワ北岸レンバン沖 (南緯六五三分 東経一二五五分) ニテ 敵潜ト交戦被砲撃ト爆雷誘爆ニ因リ沈没セリ只今迄ニ判明セル生存者 下士官兵ニ備人一

海軍

0283

東部防衛司令部ニテ調査シタル監視哨報告

二二七

十月十五日司令部受領報告

○二〇三五・九〇一軍監視哨(クラガン)

七七方向ニ十料赤ランアラシキ光ケシ動キ後停止。現在白色(自動車ライト位ノ大サ)

○二〇三〇 クラガン作業隊

クラガン海上方向ニ砲聲約二〇回ニ〇秒間隔位

○二〇三〇 パター州片

クラガン方向ニ砲聲約三〇回位 各所ヨリ報告アリ

○二〇三五 九〇一軍監視哨(レンバン)

一一方向 砲聲一五・六回 (二〇三五受信)

21ABy 談事ナシ(辻本一曹)

東防処置 地已防衛隊ヲシテ北岸監視哨ハ警戒ヲ嚴ニセシム

(文書堂納)

0284

海軍

71

昭和 年月日	自昭和十八年六月 至同十九年十月	第二海軍行動作業摘録	南方海軍航路部
六六 四		官房機密第六六五號ニ依リ水路部ヨリ南方海軍 航路部供用トナル	業 備 考
三〇	二六	東京発メスヤニ週航ノ途ニ就ク即日横須賀着	
七五	五 一 三	横須賀着	
一〇	二 七 七	吳着	指揮官織田兵曹長退任 山城兵曹長着任
一五	九 一 六	鹿児島着	
一九	九 四 五	鹿児島発(船団航行)	
二四	二 八 六	高雄着	
二六		高雄発船団航行ニ九日船団一部ニ坐礁事故アリ	
二九	六 四 〇 (三五〇)	ミミラ着	

海

軍

(文書整理)

0285

八五	ハ七五 (三三七六)	「クラカン」ニ何ケ「マニラ」發 (船団航行) 「クラカン」着	軍
一三	四五六 (三八三三)	「バリックパン」ニ何ケ「クラカン」發 (船団航行) 「バリックパン」着	一四日〇〇八五〇「バリックパン」ニ 敵機未襲「ト」文戦「ト」モ被撃「ト」レ
一六	五四四 (四三七六)	「ストラバヤ」ニ何ケ「バリックパン」發 (船団航行) 「ストラバヤ」着	二日指揮官少尉長官改選任 九日海軍少佐着任
二一	二二四	検査終了航路部換橋ニ繫留 訓練ノ爲出勤即日帰宅	海軍省「ト」十三号「ト」依ル「ト」ノ「ト」海 味方面海潮流用併観測
九	(四六〇〇)	「ハロウ」ニ何ケ「アンペン」發 「ハロウ」着十六日運「ト」ボ「ト」海味観測実施	「ハ」ア測量班「ト」訂揚 「ト」為測量艇二隻航行
一七	一八五 (四七八五)	「ハロウ」ニ何ケ「アンペン」發 「ハロウ」着	九日「ト」ス「ト」社「ト」ヲ「ト」海軍機務 一〇日発見赤色標榜「ト」付「ト」ス
一九		東方水道至由北方水路「ト」ス「ト」何「ト」ス (測量艇二隻 南方水道由由甘力回航)	
二〇			

22

九	八	七	六	五	四	三	二	一
(六八八六)	(六八二一)	(五七九)	(五七九)	(五七九)	(五七九)	(五七九)	(五七九)	(五七九)
〇七五、シカルタ、登、二〇、シカルタ、着、十一月十六日、追観測作業実施	二〇〇、荒天、爲、シカルタ、港、避泊ス	二〇〇、シカルタ、港、着	二〇〇、シカルタ、港、着	二〇〇、シカルタ、港、着	二〇〇、シカルタ、港、着	二〇〇、シカルタ、港、着	二〇〇、シカルタ、港、着	二〇〇、シカルタ、港、着
観測	二五、三、西、掃、海、水、路、於、テ、浮、航、機、雷、発、見、処、分、ス							

海軍

0287



二八	二六	二一	一九	一七	一六	一四	三〇	一七	一三	一一	一〇
(六九五)	(四一七)	(七七八)	(四一一)	(七三三)	(七三三)	(七三三)	(七三三)	(七三三)	(七三三)	(七三三)	(七三三)
〇七〇ノラクシ登一三三〇ノシヤカルツ着	〇六三〇ノシヤカルツ登一四五〇ノラクシ着	〇八五〇ノラクシ登一五三五ノシヤカルツ着	〇三三〇ノシヤカルツ登一九三〇ノラクシ着	〇六〇清水生糧品補給ノ爲ノシヤカルツノ向ケ作業地登	一三三〇ノシヤカルツ着	〇七〇〇ノシヤカルツ登一四三三〇ノラクシ着	〇七〇〇ノラクシ登一八五〇ノシヤカルツ着	〇七〇〇ノラクシ登一四三五ノシヤカルツ着	〇七三〇ノラクシ登一四三五ノシヤカルツ着	〇九〇〇ノラクシ登一四三五ノシヤカルツ着	〇七五〇ノラクシ登一四三五ノシヤカルツ着
一五〇三ノラクシ着二月四日迄スシテ海峽測深作業實施	一九二二ノ測深作業ノ爲メニ依リテス シテ海峽北口水深調査										

患者輸送ノ爲

(18)

二六	二四	一八	六	五	四	三	二	一	五	一
	一〇五五 二四七		九一〇五		一ニ六		二二三 二七四 二五〇 八二二	二二三 二七四 二五〇 八二二		(八二一)
五五 マール左 セシニ 向ケ ア ホ シ 登	三 三 ア ン ホ ン 着	九 三 三 ア ン ホ ン 向 ケ ス ラ バ 登 (船 団 航 行)	九 三 三 ア ン ホ ン 着	二 五 三 ス ラ バ 向 ケ カ ン ゲ ン 島 登	二 四 三 カ ン ゲ ン 島 着	二 三 同 右 登 カ ン ゲ ン 島 向 ケ カ ン ゲ ン 島 着	二 二 三 同 右 登 カ ン ゲ ン 島 着	二 二 三 同 右 登 カ ン ゲ ン 島 着	二 二 三 同 右 登 カ ン ゲ ン 島 着	二 二 三 同 右 登 カ ン ゲ ン 島 着
		九 三 三 四 測 候 密 才 一 六 第 一 依 ル 才 測 量 班 作 業 後 助 作 業			海 象 観 測	九 三 三 八 測 候 密 才 第 二 第 一 依 ル 才 測 量 班 作 業 後 助 作 業		九 三 三 九 測 候 密 才 第 二 第 一 依 ル 才 測 量 班 作 業 後 助 作 業		

海軍

0289

三三	五、一	二二	一九	一六	一〇	八	六	四	三	二八
		二二九九	五五五	二七二四	五九〇	二二一〇	三五一	二〇七六九	六二	二六四五 二七〇七 二六〇〇
一五五、ホルネオ南東岸、マタ角ニ向ケル、八〇〇	出像	一五、ホルネオ南東岸、マタ角ニ向ケル、八〇〇	一五、ホルネオ南東岸、マタ角ニ向ケル、八〇〇	一五、ホルネオ南東岸、マタ角ニ向ケル、八〇〇	一五、ホルネオ南東岸、マタ角ニ向ケル、八〇〇	一五、ホルネオ南東岸、マタ角ニ向ケル、八〇〇	一五、ホルネオ南東岸、マタ角ニ向ケル、八〇〇	一五、ホルネオ南東岸、マタ角ニ向ケル、八〇〇	一五、ホルネオ南東岸、マタ角ニ向ケル、八〇〇	一五、ホルネオ南東岸、マタ角ニ向ケル、八〇〇

0290

44

五	九四	二五	二二	三	八一	二五	一〇	七八	三〇	六二八	二六	五二五
一四三四三	一四二五五	一四一六〇	一四一七	一四〇七四	一三九七九	一三九七九	(一三九七一)	(一三九〇七)	一三九七	一三九七	一三九七	一三九七
〇七二〇	〇八四五	〇九一六	〇九二七	〇九三〇	〇九三九	〇九三九	〇九三九	〇九三九	〇九三九	〇九三九	〇九三九	〇九三九
タワオ登	タワオ登	タワオ登	タワオ登	タワオ登	タワオ登	タワオ登	タワオ登	タワオ登	タワオ登	タワオ登	タワオ登	タワオ登
八	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六
海軍	海軍	海軍	海軍	海軍	海軍	海軍	海軍	海軍	海軍	海軍	海軍	海軍

海軍

(文書番号)

0291

<p>九 九 一五 一八 二一 二六 二九 一五</p>	<p>二五 一四三六八 二五 一四三九三 二五五 一四七四八 五八九 一五三三七</p>	<p>八四〇〇カン登作業地着(マカシ島北東海面) 作業地登八〇八マカシ着 六四五マカシクハパンシ何ケマカシ港外登 一九三五パリウスパンシ着 一五三〇スバシニ何ケマカシクハパンシ登 一四三〇スバシヤシ着 〇九四五リンカ泊地何ケマカシ登 三三〇五分五 船ヲ敵潜ト交戦ニヨリ沈没指揮官 方ヲマカシ 以下三六名歿死 本航程観測測量中航走距離ヲ含マズ</p>	<p>一九六三測機密才五係依 測量作業援助 一九二二測機密才五係依 リシガ泊地及附近舟車海象観測</p>
<p>累計</p>	<p>備考</p>	<p>一配属期間 一年五箇月 二總航程 一五四三〇哩</p>	

0292

南航機密第五降、三四

昭和十九年十月二十一日

南方海軍航路部長

海軍省人奉局長殿

呉海軍人奉部長殿

戦死者ノ件 通知

左記ノ者十月十五日ニロソロジャワ北岸ケレンバン沖  
(南緯六度三〇分 東経三三度三五分)ニ於テ  
戦死致シ

記

- 兵曹長廣源弘 (ロ五二九) 上曹水野直一 (呉徴水二〇九四) 一曹中止清 (呉徴水二〇八八)
- 二曹石井幸三郎 (呉徴水八二三〇) 二主曹祖父江芳之丞 (呉徴主三五三) 一水片山篤
- 三 (呉) 補水三七三三 一水中山森夫 (呉) 補水三八五六 一水谷口昌一 (呉) 補水四〇三二
- 一水水正裕行 (呉) 補水四四二七

海軍

(文庫資料)

0293